



大森六中だより

令和2年 10月号
大田区立大森第六中学校
校長 松尾 廣文
TEL 3726-7155

朝礼講話 「かぐや姫」

9月28日



蝉の声も聞こえなくなり、夕暮れには、虫の音が澄みわたる季節になりました。

先週は雨模様の日が多く、残念ながら、洗足池清掃も今年初めての大岡山花壇メンテもできませんでした。

その中で、沢山の生徒が大岡山駅前に集まってくれ、とても嬉しく感じました。

今週は、天気が安定すると聞いています。

さて、この時期、毎日、月を見て泣いていた人がいました。

誰か分かる子は、担任の先生に、声を出して伝えてください。

(リモートなので。「間」)

どうでしょう。分かりましたか。

誰かと言いますと、物語の祖「竹取物語」の登場人物です。

その女性は、竹から生まれた光り輝く姫だったので、「なよ竹のかぐや姫」と名付けられました。

かぐや姫の不思議な力は、三ヶ月で成人女性に成長したことや、夜間でもその輝きは衰えなかったことで、家の中は明るかったこと、周りの人は、体調が悪くても、姫の光に触れると、痛みや疼きが消えたということでした。

物語では、姫は、不老不死で暮らせる清浄な月の世界から、罪を得て、この地球に流刑されてきたことになっています。

しかし、何故、帰郷を許されて、涙を流すのでしょうか。

原作には、この間の経緯は書かれてい

ませんが、敢えて言うならば、この世界で、受けた翁と媪の恩や帝の寵愛に罪や汚れが浄化され、断ちがたい情念に身を焦がしたからと言えるでしょう。

もしかしたら、月の世界からは、不浄と呼ばれる我々の世界、命に限りがあり、人のもつ美しさの反面、弱さや醜さも含め、喜びや悲しみの渦巻く現世にこそ、姫は安寧の場所があると考えたのかも知れません。

今年の中秋の名月は、10月1日です。昨晚の「サザエさん」は、月見のお話でした。

仲睦まじく、縁側に出て、お供えをし、月見を家族で行う場面が描かれていました。

今年のような、コロナ禍にも左右されず、平穏な日々を過ごす磯野(フグ田)一家を羨ましく思った子も多いと思います。

10月は、火星が地球に最接近し、ひとときわ明るく見えるそうです。

満月とともに、美しく輝く火星にも注目してみてください。

皆さんもこの週末、かぐや姫の帰った空を見上げて、来週に迫った試験勉強の疲れを癒やしてみたいかでしょうか。

【後日談】

10月1日の日中は、小雨も降る天候でしたが、夜は雲間も切れ、美しい名月が見られました。

花巻の皆さんへの思いを込めて

宮沢賢治ワールドを旅する

毎年、六中三年生は東北への修学旅行で、花巻の農家の方々との親交を重ねてきました。家族の一員として笑顔で迎えてくださり、自然の雄大さと有難さ、そして厳しさを農作業を通して教えてくださいました。今年度は、新型コロナウイルスのため、残念ながら伺うことができませんでした。が、これからも花巻の方々と大森六中はつながっていきますとの思いを込めて、宮沢賢治の作品を読み、受け取った世界観を発表するという企画を修学旅行実行委員が中心になって立ち上げました。花巻の方々にとって宮沢賢治は、「石っこ賢さん」としてとても身近な、愛すべき存在だからです。

班ごとに「よだかの星」「なめとこ山の熊」「オツベルと象」「セロ弾きのゴーシュ」「虔十公園林」「めくらぶどうと虹」の6作品について「賢治が作品を通して伝えたかったこと」「賢治の生きる姿勢」「賢治の理想の世界」「SDGs との関連」などを話し合い、それぞれ小見出しをつけてポスターにまとめ、発表会を行いました。また「雨ニモマケズ」を朗読し、花巻の方々への一言メッセージも書きました。現在、実行委員が、花巻の方々へのビデオメッセージを製作中です。

三年生の皆さんは、きっと将来、賢治の故郷である花巻を訪れることでしょう。その時、今回の「宮沢賢治ワールドを旅する」を、クラスメイトの顔を、そして六中での日々を思い浮かべるのではないのでしょうか。



「雨ニモマケズ」メッセージ紹介



「雨ニモマケズ」朗読



出来上がったポスターです！



三年生全員の笑顔をお届けます！“いつか花巻に行きますね”

生徒総会

テストの明けた10月9日に生徒総会が行われました。今回の生徒総会では前期から後期へ移り変わり、3年生から2年生へ代替わりの総会でもありました。これまで築き上げてきた大森第六中学校の伝統を、2年生へ引き継ぎ、新たなステップへ進む一歩を踏み出しました。



新旧生徒会長のバトンタッチ

これから創られる新しい六中に期待



各委員長が後期の活動方針
これからの六中のために活躍を
期待しています。

持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

今年度初めての大岡山メンテナンス

今年度多くの行事が中止になる中、農援隊の活動もかなり縮小され、大岡山駅前花壇整備活動もできない状況が続きました。2学期になり活動を再開しました。9月26日、11月8日、12月13日、1月17日、2月14日、3月27日の6回です。10月は土曜授業と重なり、参加できません。回数は少ないですが、できる限り地域の環境美化に努めたいと思います。

9月26日は、今年の初めての活動となるはずでしたが、雨のため、活動は残念ながら中止になりましたが、駅前に集まった生徒達を、商店街の方、NPO「花とみどりの協議会」、地域の方が、温かく迎えてくださいました。花壇の周辺を歩いて活動の意味を知り、花壇の花たちにあいさつをすると花も喜ぶからといわれ、笑顔で花壇を愛でている様子が心温まる風景でした。みどりの中で活動することが気持ちよいと感じることのできる時間でした。



樹木プレート設置活動

「公益財団法人ニッセイ緑の財団」の協力により、全国小中学校に「学校の木のしおり」と“ニッセイの森”からとれた間伐材を使用して作成した「樹木プレート」を全国の小中学校に寄贈していただく活動に、本校も参加することになりました。

ユネスコスクールとして環境教育には力を入れており、7年前、農援隊により樹木カードを作

成し設置しましたが、古くなってしまいました。今回、このコロナ禍において活動に規制がある中、「樹木プレート設置活動」は、ボランティア活動を希望していた生徒にとってとても良い機会となったようです。多くの生徒が参加を希望しています。

農援隊のクラスリーダーが中心となって希望を募ったところ、校庭の樹木の50種類を選ぶ「樹木選定班」、プレートに下書きを書く「レタリング班」、プレートに色を塗る「色塗り班」、プレートを設置する「設置班」がすぐに決まりました。密を避け、縦割りクラスごとの組織で活動します。早速13日には、樹木選定班が、プレートを設置したい樹木に印を付けました。16日にはレタリング班に作業のバトンを渡します。

校庭の樹木に興味を持ち、親しみを感じ、自分たちが作成したものを未来に残すことが、意義のあることだと思える生徒の意識の高さに、ユネスコスクールとしての誇りを感じます。1年生も行事や活動が削減されている中、六中の一員としての自覚が生まれています。何より、3年生のリーダーとしての気概も感じる活動になっています。今後の活動に乞うご期待ください。

農援隊クラスリーダー



3年中心の作戦会議



樹木選定の様子

